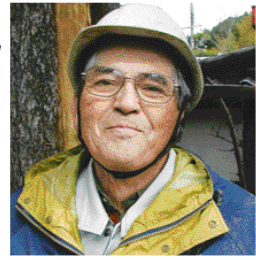




朝来町澤にある如来寺のイチヨウの木を治療する宮田さん

樹木医
宮田和男さん
朝来町



何百年も生き続けてきた但馬の巨木。朝来町の樹木医・宮田和男さんは、先祖が残した宝を次の世代に引き継ぐと日々奮闘しています。

樹木医の仕事といえば、一般的に衰退したり、弱った木を治療することを思い浮かべますが、宮田さんは人と木との関わり方を伝授するソフト面での仕事が大切だといいます。

「見・診・看。私はこの3つのみを樹木医の心得としています。まず木をしっかりと見てから診断し、そして看病する。特に最後の看るといふことが一番大事。一人の樹木医がひとつの木にずっと関わり続けるこ

但馬の巨木を支える 木との対話を大切にする 汗をかく樹木医さん

とはできません。看るというアフターケアには、毎日、木と関わる地域住民の力が必要なんです」

木を守り育てていくのは、あくまでもそこに住んでいる人間だと宮田さんは話します。

「いかにその木が地域に愛されているか。これは仕事を引き受ける上で重要な要因です。私は住民の方に必ず見る方法を教えますから」

また、子どもの頃から木に慣れ親しんでもらおうと、各地の小学校を回って、緑の大切さを伝えていきます。

「養父市大屋町の樽見では、毎年、卒業を迎える地元の生徒に、国の天

然記念物である大桜の種をまいてもらっています。これは、子どもたちに汗をかいてもらいたいから。汗をかいた体験は、一生の思い出となります。そのお手伝いができればいいなあと思っています」

人との出会いはまた、仕事にも大いに役立っています。4年前に始めたツリークライミングを駆使しての治療も、人とのつながりがきっかけでした。ツリークライミングとは、簡単な道具で木登りができるスポーツ。宮田さんはこれを仕事に取り入れれます。これにより、周囲の草木を傷めずに、樹上にある患部を治療できるようになりました。

「森に優しい樹木医さん」として、全国から依頼が舞い込んでいます。

「今後は但馬の遺伝子をもった木を増やしていくことが夢。樹木にも地域の特性があります。苗木を買って植えるのではなく、但馬の種や接ぎ木を使って、但馬弁を話す木を増やしたいんです」

汗をかく樹木医でありたいと話す宮田さん。泥だらけになりながらも、治療にあたる姿が印象的でした。

写真やイラストなどのフルカラー印刷も長年に亘り、あらゆる業界・業種に対応する総合グラフィック印刷会社です。

街を彩る。

伝えたいイメージを的確に伝える多彩な演出。今、街がメディアに変わる。

法人18年、いばせに誇りし会社

Quick Quality Cost
岩見印刷株式会社

【本社・印刷・デジタル・マーケティング事業部】
兵庫県姫路市朝来町土庫07-1 TEL.0796-48-1800 09
【e-mail】www@rockprint.co.jp
【e-mail】www@rockprint.co.jp

【姫路営業部】TEL.0793-25-4602 09 【神戸営業部】TEL.078-261-4800
【大阪営業部】TEL.075-865-2677

日本三大権現のひとつ
所願成就を祈る火の祭り

三川権現大祭

みかわごんげん

香住町の三川山のふもとに建つ「三川権現蔵王堂」



「権現太鼓」が終わると、10時30分から柴灯護摩供が始まります。

フナやシヤクナゲが群生する香住町の三川山は、古来より山岳修験道の行場として栄えた古霊場。修験道の開祖といわれる役行者が675年に蔵王権現を祀って開いたと伝えられています。この三川山のふもとにある三川権現社は大和の大峯山、伯耆の三徳山と並び、日本三大権現に数えられ、人々の信仰を集めてきました。毎年5月3日に行われる大祭では、各地から山伏や行者が集まり、盛大な護摩供が行われます。大祭は、勇壮な「権現太鼓」の打ち鳴らす太鼓で幕が開きます。これは大祭を盛り上げようと、平成元年に地元の子供たちによって始められたもの。三川山の鬼の逸話をイメージした節は、自分たちで考えたそうです。



三川権現大祭の護摩供は毎年5月3日、各地の山伏によって盛大に行われる

まず、ホラ貝を吹きながら山伏が護摩場に入場。その後、「法王」の儀式が行われ、四方に縄を張ってつくられた結界の四隅に、山伏が祈りを込めて矢を放ちます。これにより聖域が浄められると、いよいよ護摩がたかれます。「智恵の火で煩惱を焼く」という護摩供は、積み上げた護摩木に火をつけ、家内安全や無病息災などの願いを込めた小木を炎の中に投げ入れるという火の祭。松葉で覆われた護摩壇に点火されると、あたり一面はあうという間にもくもくと白煙が立ちこめます。願いを聞き入れたかのように勢いを増した煙と炎は、圧巻の一言。この煙は体の悪いところにあてると病

気が平癒する御利益があり、参拝者はここで煙を浴びるそうです。「当日は車の列が数キロにもわたって続き、普段静かな集落も賑やかになります。大祭は地域の一大イベント。高齢化が進んでいます。この伝統行事を続けられるよう、盛り上げていこうと思います」と、地元の方は話します。大祭の名物のひとつである特産の板餅も、地元の人々が丹精込めて作ったもの。手間暇かけた昔ながらの手作りで、本物の板餅の味が楽しめる評判です。祭りを影で支えるこうした人々の努力によって、三川権現大祭の伝統は守られてきたのでしよう。協力：三川山 弥勒寺

こだわりのきもの屋

着物は日本の女性を最も美しく演出してくれるものです。当店はTPOに合わせた着物、帯、小物合わせから着付けまで、トータルでお手伝い致します。商品的にはオリジナル性、また付加価値の高い商品を常時展示しています。事前にご連絡頂ければ、24時間フル対応致します。



KIMONO SALON KEITANI
きものサロン けいたに
フリーダイヤル 0120-529-008
〒668-0084 兵庫県豊岡市編田1887-1
電話 0796 (24) 9239番
FAX 0796 (24) 0185番
E-mail : kimonosalon@nikanasai.net

